

雨水渠工事実施設計業務委託(R6-1) 特記仕様書

1. 特記仕様書の適用範囲

この仕様書は「雨水渠工事実施設計業務委託(R6-1)標準仕様書」(以下「標準仕様書」という)の第1章1.1及び1.2に定める特記仕様書とし、この特記仕様書に記載されていない事項は、標準仕様書による。

2. 業務の対象

- | | |
|-----------|--|
| (1) 名 称 | 雨水渠工事実施設計業務委託(R6-1) |
| (2) 位 置 | 甲府市西下条町地内ほか(別添位置図のとおり) |
| (3) 業務の目的 | 本業務は、甲府市公共下水道(雨水)基本計画に基づき、流川第3・第4幹線を整備するための測量及び地質調査、実施設計業務である。計画延長は約470m、雨水渠の計画断面はB1200、H1300～1400、流末は一級河川「流川」に流入している既施設を改修する計画である。 |
| (4) 業務概要 | <p>【測量業務】基準点測量・水準測量・現地測量・ 路線測量(雨水渠)(河川)・用地測量(雨水渠)(河川)</p> <p>【設計業務】雨水渠実施設計・水門設備詳細設計・仮設構造物詳細設計・ 標準護岸詳細設計・打合せ協議(中間5回)</p> <p>【地質調査業務】機械ボーリング・標準貫入試験・原位置試験・ 土質試験・地質調査間接業務</p> |

3. 業務内容

3.1 測量業務

(1) 基準点測量

現地測量及び路線測量等の基準として使用する4級基準点測量を行う。

基準となる既知点が近傍に存在する場合、又は関連付けを行う必要がある基準点がある場合はこれを使用するが、無い場合は起点・中間・終点部に設置する基準点にGPSにより座標を取得するものとする。

起点・中間・終点部付近に設置する基準点は、工事終了まで存亡の無い箇所で沈下移動の生じない箇所に設置すること。なお、設置箇所の許可了解については受注者が行うこと。

(2) 水準測量

基準となる水準点が近傍に存在する場合、又は関連付けを行う必要がある水準点がある場合はこれを使用するが、無い場合は受発注者で協議を行う。

水準点の設置は(1)基準点測量で設置する基準点と同様な条件で設置する。基準点と水準点を兼ねる場合は委託内容の変更対象とする。

(3) 現地測量

雨水渠計画路線の現地測量(0.014km²)を行う。測量範囲は別途指示する。

(4) 路線測量（雨水渠）

中心点間隔は20m、横断測量幅は45m未満、

中心点は計画雨水渠の中心、若しくは偏心した位置に設置する。

仮BMの設置間隔については工事施工計画を勘案し、発注者と協議の上決定する。

(5) 用地測量（雨水渠）

計画雨水渠路線の終点付近及び、流末施設付近において用地買収が想定されるため、用地測量調査を実施する。なお設計業務「雨水渠実施設計」の項目中の「公図調査」と重複している箇所については、委託数量の変更対象とする。

3.2 地質調査業務

雨水渠の流末施設の改築に際し、構造物基礎工検討及び仮設計画のための基礎資料を得るために地質調査を実施する。

(1) 機械ボーリング

地質及び掘削深度については、2箇所（粘土・シルト 7m（φ66mm ノンコア）、砂・砂質土 20m（φ66mm ノンコア）、レキ混じり土砂 13m（φ66mm ノンコア））を想定している。また、構造物基礎工及び仮設構造物の設計に要する地質構成、N 値等の成果を十分得ることが出来る深度まで掘進することとするが、掘進状況については常に発注者と情報共有し、掘止め深度については発注者と協議の上、決定する。

(2) サウンディング及び原位置試験

掘削深度 1 m毎に標準貫入試験を行う。また、地盤の水平方向の特性を把握するため孔内水平載荷試験及び現場透水試験を各 2 回実施する。載荷試験の試験孔及び深度については受注者から提案し、発注者の承諾を得て実施する。

(3) 土質試験

地盤の基礎的な特性を把握するため土質（室内）試験を実施する。試験内容については内訳書のとおりであるが、追加又は不要な試験項目数量及び、試料の採取深度及び採取方法については、受注者から提案し、発注者の承諾を得て実施する。

(4) 資料整理等

機械ボーリング及び標準貫入試験の結果から地質柱状図を作成するとともに、地質調査全般について調査結果のとりまとめ及び評価を行う。

(5) 準備及び跡片付け

地質調査に関する調査計画の立案、機材搬入路の調査確認、調査箇所の借地等の交渉、調査孔位置の測量、調査後の跡片付け等を行う。

(6) 平坦地足場

機械ボーリングの資機材を設置するための足場であり、平坦地に設置することを想定しているが、平坦地足場が使用できない場合は、受注者から提案し発注者の承諾を得て変更する。

(7) 環境保全

地質調査のための作業エリアに第三者が立ち入ることのないよう、仮囲いを行うこと。特に夜間には立ち入ることが出来ないようにするとともに、常夜灯の設置等を含め安全管理には万全を期すること。

(8) 給水費

地質調査時に要する水は「流川」から給水する予定であるが、河川管理者との協議により決定する。

(9) 調査孔閉塞

機械ボーリングにより生じた調査孔は確実に閉塞すること。閉塞に用いる材料は調査地点周辺が水田であること、住宅地に近いこと等を勘案し適切な材料により閉塞すること。

3.3 実施設計業務

(1) 開削工法（ボススクカルバート・開きよ）【現場打ち】

雨水渠の実施設計を行う。計画断面はB1200×H1300～1400を計画断面としているが、本項目中で再検討を行い断面を決定する。

また、計画路線中で既設水路（農業用水路）と3ヶ所で交差するので、次項で設計する水門設備と合わせ、この水路の機能を失うこと無く、常時・降雨時・非常降雨時等に雨水渠としての機能を失うことなく、また水門等の操作が安全かつ確実に行えるよう、十分な検討を行い実施設計を行うこと。

(2) 水門設備詳細設計（ラック式スライドゲート 300×300）

計画雨水渠と交差する既設水路2箇所を設置する。計画ではラック式スライドゲートとするが、現地の状況に応じた水門形式とする。なお、他の構造形式又は二次製品の水門が使用可能である場合は、十分な検討を行い採用する。この場合、委託項目数量の変更対象とする。

また、水門の設置に伴う既設水路の改修及び水門躯体部の設計については、雨水渠の附帯物として取り扱う。

(3) 水門設備詳細設計（ラック式スライドゲート 1200×1000）

雨水渠の流末部、「流川」への放流施設に設置する水門で、計画ではスピンドルゲート 1200×1000とするが、河川管理者との協議により扉断面及び水密方法を検討する。

(4) 水門設備詳細設計（転倒ゲート）

既設水路と交差する箇所において、平常時に既設水路に流下させる場合、雨水渠側に堰上げゲートを設置する必要がある。計画では小規模な転倒ゲートを想定している。なお、他の構造形式の使用が可能である場合は、十分な検討を行い採用する。この場合、委託項目数量の変更対象とする。

また、水門の設置に伴う既設水路の改修及び水門躯体部の設計については、雨水渠の附帯物として取り扱う。

(5) 水門躯体詳細設計

上記の水門設置箇所における雨水渠（二次製品）と水門との取り付け部（現場打ちコンクリート）の詳細設計を行う。

(6) 仮設構造物詳細設計（土留工）

雨水渠の流末部、「流川」への放流施設に設置する樋門・樋管の施工に際し、必要となる鋼矢板仮締切りの詳細設計で、計画では切梁2段式としている。

(7) 標準護岸詳細設計（片岸）

雨水渠の流末部、「流川」への放流施設に設置する樋門・樋管の施工に際し、既設の護岸を復旧する計画で、設計範囲は河川管理者との協議により決定する。

4. 打合せ協議

打ち合わせ結果は受託者が「打ち合わせ記録簿」にとりまとめ、受託者と発注者が押印し報告書と共に提出すること。

5. 関係機関協議資料作成及び協議への出席

雨水渠の流末部「流川」の管理者に対し、河川法の必要条項の許可申請を行うため、事前協議資料及び申請図書を作成すること。また、申請図書の作成は測量業務成果及び実施設計成果を使用することにより可能であるため、受託者は協議資料のとりまとめを行うとともに、発注者と事前協議に出席すること。

6. 成果品作成の事前協議

本業務の成果品の作成に先立ち、報告書の内容や編集方法及び図面の体裁等について監督員と協議を行うものとする。

7. 電子納品作成要領

納品する電子データは、「山梨県県土整備部 電子納品要領」（以下「要領」という。）及び「山梨県県土整備部 電子納品運用マニュアル」（以下「運用マニュアル」という。）に従い作成する。

8. 疑義

本特記仕様書により難しい場合は、監督員と協議し、決定するものとする。